

変わっていると思う。藻場の減少、排水の浄化による海の栄養不足、クラゲの大発生なども問題。獲り過ぎはないと思う」(濱田秀樹氏 山口県)

で61%の回答者が指摘した汚染や栄養条件の変化ともつながる話だ。

科学を信じずとも期待感 は存在

前回の通り、科学的な資源評価を信用できない人が44%いた。だが一方、政府が科学的な漁獲制限を行う際に協力する条件として「魚介が減ったり増えたりする理由を解明する」に計86%の回答者が「必要」とも必要」と回答するなど、国に資源減の原因究明を求める意見は多い。漁業者本人の科学への信頼度の高さや獲り過ぎを問題視するか否かにかかわらず、資源減の実態解明を求める格好となった。

インタビューでも、過剰漁獲が問題だとした匿名漁業者から「資源の減った原因を検証していない。よしんば増えても、原因が分からなければ同じことを繰り返す」、環境要因を問題視した濱田氏から「(資源が)減った、増えたの根拠があまり示されていない。これが前提にあって初めて『こうしよう、ああしよう』になる。単純な感覚でなく、まずはデータを示すべき」と聞かれた。気候変動などで獲れる魚種が変わる中、「温か

「魚介が以前のように獲れない」「問題を感じる」「とても問題を感じる」と答えた方にお聞きします。魚介が以前のように獲れなくなったのは、何が原因だと思いますか

	全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	とてもそう思う	合計	加重平均
①魚介の資源の減少	0.00% 0	2.17% 1	8.70% 4	39.13% 18	50.00% 23	46	4.37
②魚介の小型化	0.00% 0	13.04% 6	34.78% 16	39.13% 18	13.04% 6	46	3.52
③魚介の分布域の変化	0.00% 0	2.17% 1	21.74% 10	45.65% 21	30.43% 14	46	4.04
④魚介の獲れる時期の変化	0.00% 0	6.52% 3	23.91% 11	47.83% 22	21.74% 10	46	3.85
⑤漁船等の性能の劣化	26.09% 12	21.74% 10	28.26% 13	15.22% 7	8.70% 4	46	2.59
⑥競合する漁船の増加(外国漁船含む)	8.70% 4	21.74% 10	34.78% 16	19.57% 9	15.22% 7	46	3.11



資源の増減の根拠を求める濱田氏

漁業者アンケート回答 9割方は資源の減少を実感している。問題視した。原因に拳がかったのは環境要因が中心で、獲り過ぎも過半数。現時点の科学への信頼度は高くなかった一方で、共通して資源減の原因究明を求める傾向があった。皆、そう感じているようだ」(匿名・大中小型巻網)、「海藻の種類が変わりサザエやアワビの餌が減ったとベテラン漁業者に言われる」(阿部和馬氏 愛媛県、素潜り漁)と指摘された。

獲り過ぎを感じるという回答も54%と過半数。「対象魚種の資源が激減している。海流などの環境が変わっていると思うし、それは海水温や資源の育ちに影響し得る。だがその種が地球に現れてから環境変動はあったはず。それを生き延びて今減少しているのだから、減少の一番の原因は人間と問題提起があった。一方、国が過剰漁獲と分析するキヌメダイについて、「千葉・勝浦沖の漁業者は年々(自主)規制をきつくしており、資源はあると思う。(単位漁獲努力当たりの漁獲量などが減っているという分析について)調査法は聞いていなかったが、近年は潮が速くなりすぎて餌を狙ったポイントに落とせないなどがある。それでも釣れるし、魚の分布範囲は広いのでは」(北澤直諒氏 千葉県、釣)という意見もあった。その他、環境条件については「海底を掘り返す底引網が減り、底質が硬くなって、底魚の分布が

高まる科学分析ニーズ 資源変動解明や操業効率化へ

底引網)、「サザエやアワビの餌になる藻が減ったと高齢層から聞く。また海底が埃(ほごり)をかぶるように汚くなった」(阿部和馬氏)などの指摘もあった。アンケート

い水を好むサワラやタチウオが見られるようになった。今後獲れそうな魚種を早めに資源管理を」(阿部誠二氏 宮城県、刺網)との声も。漁場予測のため「水温や潮流を活用するための課題について考える」(東京支社 太田毅人

い水を好むサワラやタチウオが見られるようになった。今後獲れそうな魚種を早めに資源管理を」(阿部誠二氏 宮城県、刺網)との声も。漁場予測のため「水温や潮流を活用するための課題について考える」(東京支社 太田毅人

い水を好むサワラやタチウオが見られるようになった。今後獲れそうな魚種を早めに資源管理を」(阿部誠二氏 宮城県、刺網)との声も。漁場予測のため「水温や潮流を活用するための課題について考える」(東京支社 太田毅人

い水を好むサワラやタチウオが見られるようになった。今後獲れそうな魚種を早めに資源管理を」(阿部誠二氏 宮城県、刺網)との声も。漁場予測のため「水温や潮流を活用するための課題について考える」(東京支社 太田毅人

